

テーマ「日常の中の国語の学習」

■言葉の習得から考える

そもそも私たちはどのように言葉を習得し、言葉を使って、話すこと、聞くこと、書くことができるようになったのでしょうか。難易度云々はぬきにして、わたしたちは言葉を使って物事を考えたり、理解したり、伝えたり、受け取ったりしています。だからその方法を教わることもなしに…。

難しいことはぬきにしても、わたしたちは生まれてから、自分たちの生活の中で言葉を用いた様々な行為を身につけていることは確かなことです。となれば、国語の学習の根本的な部分も日常生活の中で学ぶことができるのではないのでしょうか。

■「あれ」「これ」「それ」？

はっきりと言葉に表そう

語彙に不安がある子どもたちに共通していることは、単語の省略が多いこと、指示語が多いことです。わからない語彙があるので、すから致し方ないのですが…。

そのようなときに、はっきりしない言葉を指摘できるのはだれでしょうか。それは周りにいる大人に他ならないのです。語彙を持たないものに、それは何とせまったところで表しようがないのです。大人がはっきりとそれを言葉に表してあげなければならないのです。それこそ日常生活でのトレーニングなのです。

■周りに目を向けよう

私たちの身のまわりには文字があふれている

家の中をみてください。目につく範囲に何かしらの文字はありませんか？外を歩いてみてください。ちょっと歩けば何かしらの文字はありませんか。

私たちの身のまわりには様々な文字があふれています。当然、それらは何かしらの情報性をそなえています。その情報を読み解こうとすることも国語の読み取りの学びです。わからないことは、いっしょに考えたり、調べたりしてもいいでしょう。

■メディアに接する

言葉に出会うきっかけを増やそう

独居房ではないので、わたしたちは日常でさまざまなメディアを通していろいろな言葉に触れることができます。テレビ、ラジオ、インターネット、書籍…それぞれから言葉があふれています。テレビ番組を見る、ラジオを聴く、本を読む、映画を見る、好きなものの、ちょっと興味があるもの、何かわからんが気になるもの、なんでもいいので、とにかく言葉に出会うきっかけを増やしてみませんか。

■家族との会話の時間をとろう

会話で言葉の運用を鍛える

家族との会話の時間は一日にどれくらいありますか？まとまった会話の時間をとられていますか？年齢が高くなれば、その時間は減ってくるのは確かです。それでも、家族の会話を通して、言葉を使うことが鍛えられるのは確かです。幼い子が親との会話を通して言葉を必死に使おうとしていたのですから、それと同様に、年齢が高くなっても言葉を使うことは会話を通じて鍛えられるでしょう。

まんが「サザエさん」「ちびまる子ちゃん」のような家族の会話の時間は大切です。

■まとめ

わたしたちの日常には言葉があふれています

1. 日常生活の中で語彙を増やすこと。
2. 家庭での会話を増やし、言葉の運用を鍛えていくこと。
3. はっきりしない言葉を正してあげられるのは周りにいる大人であること。